

# 立命館經濟學

第十卷 第一号

昭和三十六年四月

## 内 容

### 論 說

- 労務管理の対象……………坂 寄 俊 雄 1
- 賃労働者の範疇的把握（中）……………梯 明 秀 22  
——マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して——
- 士族反乱の構造的特徴について……………後 藤 靖 85

### 研 究

- 資本予算と減価償却……………服 部 俊 治 131  
——投資利益率に及ぼす加速的減価償却の効果——

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

# 立命館経済学

第九卷・第五号

## 論説

差額地代にかんする剰余生産物説 白杉庄一郎

——榊田説批判——

価値尺度機能と

価格の度量基準機能

——天沼説への私見——

小牧聖徳

## 研究

国有企業価格政策論争について 辻和夫

十八世紀におけるライン繊維工業の展開と

「営業の自由」の前提条件(一) 川本和良

発行所 立命館大学人文科学研究所

# 立命館経済学

第九卷・第六号

## 論説

賃労働者の範疇的把握(上)

梯明秀

——マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して——

戦後日本の農業制度の破綻

井上晴丸

古典学派に於ける財政思想(一)

箕浦格良

——A・スミスとJ・S・ミルの租税原則論の展開——

丹後機業地における

労使関係について

足立政男

## 研究

十八世紀におけるライン繊維工業の展開と

「営業の自由」の前提条件(二) 川本和良

発行所 立命館大学人文科学研究所